

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1339 2025/06/19 (THU)

発行 広島高校連絡会事務局

Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照巳)

「許す」「許さない」ということ…

～再び松井市長の広島市長としての資格を問う～

イスラエルによるガザの人たちへの虐殺は許されない！

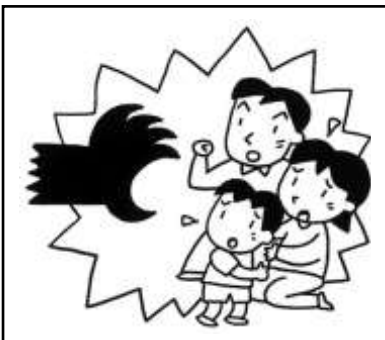
イスラエルのテルアビブ大学の名誉教授がこんなことを言っています。「テロリストを殺そうとしたとき、一緒にいる家族や近隣住民といった非戦闘員も巻き添えて死ぬかも知れません。これは国際法でも認められたものですが、均衡のとれたものでなければなりません。」「(均衡とは?) 攻撃による軍事的利益と巻き添え被害の比較です。判断するのは…攻撃地域の軍の指揮官。…イスラエル軍が攻撃しなければ、敵は得をする。…巻き添え被害はイスラエル市民を守る結果として起きるもの。巻き添え被害を避けるために、自衛しないということはありません。」イスラエル軍によるガザの人たちへの攻撃は、「巻き添え」「イスラエルの自衛」のレベルをはるかに超えるものです。ネタニヤフ自身も「ガザに残るものを全員武装解除させ我々は『トランプ計画(ガザの人を追い出してガザをリゾート地にする)』を実行する。」と言っています。そもそもガザの人たちの8割は、現在イスラエルが暴力的に占領している地域から逃れた難民です。そのガザ市民を追い出すことは「民族浄化」=戦争犯罪そのものです。



ガザの支援をつづけている日本人医師は、「ガザは「爆撃による死」と「病気が治らない死」と「飢える死」、3つの死にさらされている。これまでの人類で経験したことのないような地獄絵図が広がっている」と言います。2023年10月以降ガザの死者数5万3千7622人うち子ども1万6千503人。飢餓の危険も迫っています。もしイスラエルの国民も「巻き添え」だとか「自衛」だとか考えているのなら、イスラエルの国家指導者だけではなく、イスラエル国民も国際的にも、歴史的にもその罪から逃れられない、決して許されるものではない。

原爆投下という虐殺は許されるのか？！

～広島市平和教材「平和ノート」美甘章子氏の「許す心」をふたたび問う！～



2年前、広島市の小中高校生が使用する平和教材「平和ノート」から「はだしのゲン」を削除したことが大問題になり、人びとに非常に大きなショックを与えました。

私はこの問題について、高校連絡会ニュース 2023年4月27日号や教育研究所の「ヒロシマの子育て・教育」2023年6月号にも書きました。その中で、削除された「はだしのゲン」・第5福竜丸・「はだしのゲン」の作者中沢啓治さんのインタビュー記事に代わって差し替えられた教材について分析しています。差し替えられた主要な教材は、美甘章子(みかもあきこ)さんが父進示さんの被爆体験を書いた『8時15分～ヒロシマで生きぬいて許す心』と広島市作成「美甘章子さんインタビュー映像」、そして美甘さん自身の紹介や中学3年の教材には「Q&A」が使われています。

美甘章子さんは、現在アメリカで臨床心理医として心理療法をする広島の被爆2世です。今年の4月に開かれた母校 広島附属中学・高校の120周年記念行事のイベント(司会:大下容子)に招かれ記念講演を行っています。その案内チラシに「…東京・名古屋・熊本などの学校で平和学習のために映画、著書が活用されるほどで、その内容は国内外から広く共感を得ている。今年は被爆から80年。講演や上映会などを通していろいろな形で平和へのメッセージをさらに世界に広げていきたいと、鋭意活動中。」と紹介されています。

はて？「共感を得ている」という彼女のメッセージとは、「平和ノート」のQ&Aはこう述べています。

Q父の美甘進示さんからの教え

A「戦争ではどの国もひどいことをしていたし、日本も例外ではない。アメリカが悪いのではなく戦争が悪いのであって、立場の違う人たちのことを理解しようとしなさい、もしくは自分の利益追求に走ってしまう人間の弱さが戦争につながる。どちらが悪いという考え方は全く意味がない」とたびたび説かれ、橋渡しをする人間になるようにと育てられました。



教科書ネット・ひろしま主催の学習会資料から3点だけ問題点を引用します。

- ① 原爆を落とした「アメリカやアメリカ人を恨まず許そう」という美甘さん個人の意見を補助説明なく平和学習の結論のように生徒に提示していることは適切とは思えない。
- ② 「悪いのはアメリカ人ではなく、戦争だ」という父の言葉をそのまま受け入れ、戦争の原因や仕組みを考えない美甘さんの抽象的な意見も適切な教材ではないこと。
- ③ 『8時15分』のあとがきに美甘章子さんは「共感と許す心こそが自分の感情の奴隷となることなく、より自由な物事のとらえ方をすることができる」「『どれだけつらい目にあったか、どんなに不公平なできごとだったか、どんなにひどい扱い方をうけたか』についてじっと念じ続けてとらわれている状態から自らも解放できると、その分、自己成長と癒やしのためのエネルギーと心の余裕が作り出せる」と述べている。これは被爆者たちに対して、「加害者であるアメリカに共感し許す心を持ちなさい」と一方的に主張していることである。

つらい目にあい、不公平でひどい扱い方をうけ、人間の尊厳さえ奪われている現在のガザの子どもたちに、美甘章子さんは、同じように「許す心」をどんな顔して呼びかけるのだろうか？3月15日に開かれた学習会に参加された臨床心理士さんが「何かの事件の被害者に、加害者に対して許しましょうねということは絶対に言うてはいけないことだ。『許す』ということには、必ずプロセスが必要だ。…何段階かのプロセスを経て、初めて『許す』というところに到達できる。」という発言が印象的でした。なぜ戦争が起きたのか？その戦争の意味は？原爆投下の原因は？その被害状況は？戦後被爆者は？そもそも原爆・核兵器はどんな兵器なのか？投下したアメリカは原爆に対してどう向き合ってきたか？そして現在は？などさまざまなプロセスでの学び、認識の変化、コミュニケーションの深まり、などを通して原爆や平和へ向き合うことができるのではないのでしょうか。

美甘章子さんの平和教材「許す心」は決して共感を得られるものではない！

たとえば、アメリカやロシアなど9つの核保有国が2024年に核兵器の開発や維持のために支出した金額が、前年比11%増の1000億ドル（約14兆3500億円）。1秒間に3169ドル（約45万5000円）費やしていることをICANが発表しました。もっとも多かったのがアメリカで、前年比10%増の568億ドルです。もちろんアメリカは「原爆投下は非戦闘員に対する無差別大量殺戮で、国際法違反」ということを一切認めず謝罪もしていません。それなのに子どもたちに授業で「原爆を落としたアメリカを許そう」と学ばせることは、とても「共感できる」ものではなく、平和教材として不適格といえます。

「許す心」は結局原爆投下国アメリカの責任を免ずることになる！

この「平和ノート」教材を「はだしのゲン」から美甘章子さんの「許す心」に差し替えたできごとの延長に広島市の平和記念公園と米ハワイ州のパールハーバー国立記念公園との姉妹公園協定があります。広島市の局長は「原爆投下に関わる米国の責任の議論を現時点では棚上げする」と市議会で答弁しています。松井市長の意志なのでしょう。以前にも松井市長は「原爆投下の謝罪にはこだわらなくてよい」とか「わびるわびないを問題にすべきではない。」と発言。両公園の姉妹協定締結のときも「かつては敵味方に分かれていた日米両国の市民にとって（協定は）友好の架け橋となる」と発言し、原爆投下国アメリカの責任を問わないのは彼の「確信」なのでしょう。それが「平和ノート」の教材差し替えに反映されているのです。

また松井広島市長が暴走！

この連絡会ニュースが届く頃には、天皇と皇后の広島訪問は終わっています。私は、この訪問については、先日の沖縄訪問、そして9月の長崎訪問を含めて「評価」されるべきものであり、上皇ご夫婦、そして天皇ご夫婦そして愛子さんのいわゆる“慰霊”の旅について敬意の気持ちも持っています。そのことと、今回の広島市長主導による小学生の「お出迎え」動員。しかも校外学習という授業の一環として小学生を参加させようとしたこと（この執筆時には具体的様子はわかりません）は、6月4日の天皇ご一家の沖縄訪問時にはこのような小学生の「お出迎え」がなかったこととも比較して、「個人の意思が無視されている」点で大いに問題があったと思います。しかも小学生の授業中での「動員」にもかかわらず、市の教育委員会を飛び越えて市秘書課＝広島市長の「暴走」は、いくら非難されても教育勅語を職員研修に使いつづける市長の対応と軌を一にすると考えていいのではないのでしょうか。

何度でも言います！松井広島市長は平和行政を推進する市長の資格はない！

松井市長は今年も新任の職員研修で教育勅語を引用しました。その姿勢は批判に謙虚にならず、むしろ頑なに＝意固地な態度で「教育勅語は民主的で素晴らしい」とまで言っています。明治憲法発布の直後に出された教育勅語は言うまでもなく、さまざまな徳目をちりばめながらも「一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ（万一危急の大事が起ったならば、大義に基づいて勇気をふるい一身を捧げて皇室国家の為につくせ）」が最重要視されているものです。つまり「天皇のためにはいつでも一命を捧げ」が、最も重要な徳目であり、現在放映中の『あなぱん』でも皇国臣民としての生き方を学校教育の中で教える姿が描かれています。

当然日本国憲法の価値観とは相容れず、戦後すぐに国会で「廃止」「失効」決議がなされています。広島市長松井一実の「教育勅語」利用に反対する署名活動に関連してメッセージを寄せた歴史家で元広島市立大学広島平和研究所教授の田中利幸さんは、教育勅語のもと日本が侵略戦争に突き進み多くのアジアの人びとに犠牲を強いた「厳然たる歴史経緯を忘れて、『教育勅語には民主主義的な言葉が並んでいる』などという愚鈍な発言を恥ずかしくもなく発することのできる人間に、広島市長を務める資格は全くない。」と断じています。まったく同感です。

最後に田中さんは谷川俊太郎の短い一編の詩(1951年)を紹介します。

原子爆弾
「呪いのみが私を支える
無知と傲慢とが
ひとつの法則を畸形にする
そこからすべてがひびわれてくる
やがて無が葦（きのこ）の形をして
一瞬宇宙を照らすだろう」

（本間 英次） 2025年6月18日記